

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401350		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホーム菜の花Ⅱ		
所在地	長崎県南島原市南有馬町乙1565番地1		
自己評価作成日	平成29年12月14日	評価結果確定日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4271401350&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所と併設しているグループホームなので、医療的に重度の利用者が多いですが、医療面では診療所と連携をとり、利用者一人一人の状態に応じて医療的に十分なサポートが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

半島の南端部に位置し、海岸線の景観が美しい。診療所を併設する母体法人の会議をもとに、グループホームの職員会議にて、自分で歩きたい自分で食べたいという、一人一人の意思及び人格を尊重するという理念に添った支援を行っている。地域のマラソン大会や夏祭りにも参加し、学校や保育園との交流も行っている。介護計画の目標を日々の支援記録に落とし、職員が支援の中確認しやすいものとなっている。医療法人が母体にて、医療との連携が図れており、看取りにおいても医師や看護師の協力が得られ、利用者・家族・職員共に安心して対応できるものとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」を理念に掲げ又食堂にも掲示し誰でもわかるようにしている。定期的に職員会議を行い実践につなげている。	理念は、グループホームの開所前より法人で掲げていたものである。職員へは、毎月行われる法人全体の管理者会議での実践報告を受け、その後の事業所職員会議にて周知共有している。日々の支援の中、利用者へ声掛けを行い意向の把握を行っている。理念はパンフレットや契約書・重要事項説明書にも載せて、利用者本人だけではなく、家族へも周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	原城マラソン大会や地域の祭り等に参加している。福祉体験や保育園の慰問等地域交流に努めている。	地域との交流は、母体医療法人がく地域に根差した病院をモットーにしており、地元のマラソン大会への職員参加や応援を推奨している。半島全体のグループホームのフーズンバレー大会へも参加している。中学生や保育園の園児の慰問は、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に対して理解や支援方法についてはあまり活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域の方や利用者、家族等に事業所の活動等報告している。そこでだされた意見は職員会議で報告しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、利用者や家族・介護保険課・郵便局局長が定期的に参加し、利用者の現状や、消防避難訓練等の事業所活動報告を行っている。職員は法人全体の委員会活動にも参加し、医療安全・感染予防・褥瘡予防等の報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所で困った事、分からない事は市町村へ連絡し、相談にのってもらったりしていたり協力を得ている。	運営推進会議時に、地域広域市町村圏組合介護保険課職員が毎回参加して、意見を聞いている。市町村との窓口は管理者が中心となり、運営上の疑問や不明点を聞いたり、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行なわないようにしている。生命等に関わる場合は家族に同意を得て行っている。	職員は、行政主催の身体拘束の研修に定期的に参加している。玄関は日中施錠せずに、出入りがわかるように鈴をつけている。転倒防止にセンサーマットを使用しているが、夜間帯のみとしている。できるだけ身体拘束を行わないように、見守りを重視している。言葉での拘束もその場で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会があれば参加している。虐待が見過ごされることがないように全職員が日頃の職員自身の言動をふりかえり注意することで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修には参加しているが、学ぶ機会が少なくすべて理解するのは難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。分からない所はその都度聞いてもらい理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の面会時に心がけてコミュニケーションをとり意見や要望を聞いて運営に反映させている。	意見箱も玄関へ設置しているが、意見が入ることはあまりなく、家族面会時に直接職員へ話をされることが多い。家族からの意見や要望は特に無く、利用者の近況報告を聞かれることが多い。利用者の意見要望は、日々の支援の中職員が声掛けにて意向の把握を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞き反映させている。	職員とは半年に1回、人事考課の評価時に個人面談を行っている。5年以上の勤務者が多く、働きやすい職場となっている。事業所の浴槽等のハード面や物品、行事についての意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や能力給等で給料に反映し、やりがいを持つようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内、院外の研修がある場合は、全職員に話し、積極的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、定期的な話し合いや研修会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前やホームの説明時に不安な事や困っている事、要望等詳しく聴き、安心してもらえる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもホームの説明時に不安な事や困っている事、要望等詳しく聴き、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に希望や要望等を尋ね、その上で何が必要なのか考え支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のできる事は自分でしてもらっている。またレクリエーションや一緒に買い物等行い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで支援していくのは難しい面もあるので、家族にもできるだけ協力を得ている。また電話や面会時に日々の状況や状態を伝え、要望があれば聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会はあまりないが、時々親戚や近所の方が面会に来られる事がある。	母体である医療法人のデイサービスの通所者や、病院へ見舞いに来た人等、グループホームの入所前に親交があった地域の方々の訪問がある。日々の日課として新聞を取っている利用者が複数おり、継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事は利用者が集まって食べていただくようにしている。行事等には職員が間にはいり利用者同士が係わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も会う機会があれば声かけを行い、必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に聞きとりケアプランに反映させ、把握に努めている。困難な場合は生活歴や他職種の意見を参考にしながら本人本位に検討している。	入院先からの情報も把握してサマリーなどもらっている。入所時には本人や家族の思いの聞き取りを行っている。仕草や生活歴、その方のしたいことを感じながら意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたり、他施設から情報提供をしていただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報、アセスメント、日計表、個別の介護記録や毎日の申し送りで、利用者一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行って意見を出し合い、どうすればよりよいケアができるのか話し合っ て介護計画を作成している。	訪問看護の記録や毎日のバイタルチェックが閲覧できる。長期・短期の目標が日常に記録に掲げられ、モニタリングや次の介護計画にも解りやすく評価ができ職員全員で介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に様子や状態、気づき等を記入し、その情報を共有して、よりよい支援ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等に応じて、柔軟なケアができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関や理美容等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックと連携を図り、適切な医療が受けられるようにしている。眼科、歯科等本人、家族の希望に合わせて受診している。	定期的に往診が行われている。かかりつけ医以外の受診も家族と共に受診をし病状の把握をしている。訪問看護も併用しており医師、看護師、事業所職員と連携した支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護指導の時や利用者の身体の状態に異常があれば看護師に報告し、相談や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設クリニックへの入退院が主であり、常に医師や看護師と情報交換や相談を行い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医師、看護師、介護職員で十分に話し合いを行い、全員で方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	事業所内での看取りが行われている。医師を主として家族に説明後、病院と訪問看護、事業所24時間体制で支援が行われる。家族も宿泊でき寄り添う支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内の勉強会に消防署の方を呼んで訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。月に一回防火自主点検表で確認を行っている。また定期的に消防設備点検もうけており、不備があった場合は早急に対応している。	隣接する法人内の施設職員と共に避難訓練を行っている。避難経路も掲示され2階から病院のほうに避難ができるなど必要に応じ避難経路が確保されている。水や食料品、毛布、ポータブルトイレなども備蓄されている。	火災の訓練は定期的に行われているが、地震や水害などあらゆる災害に応じた避難訓練が行われていない。あらゆる災害に対応した避難訓練が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせた言葉かけ等しているが、業務が忙しいと強い口調になってしまうことがある。できるだけ優しい気持ちをもって声かけするよう日々努めている。	利用者の気持ちに寄り添い、無理な支援や介助をしないよう心掛けている。部屋やリビングで過ごすなども自由にしている。広報誌などの顔写真の掲載にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう日々声かけを行っている。利用者によっては職員任せや遠慮して言ってくださらない利用者もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせているが時折、職員の都合にあわせて過ごさせている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に洋服を選んだり等、おしゃれができるよう支援している。整髪や髭剃り、爪切り等細かい所は職員が気がけて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは難しいが、テーブル拭き等、簡単な事は利用者に手伝ってもらっている。利用者の食事の好み等を聞きメニューにとりいれたりして楽しみになるようにしている。	1・15日は赤飯やてんぷら等を提供している。誕生日などは食べたい物を聞き取りをしたりケーキや饅頭も提供されている。職員も一緒に食事をとり家庭的な雰囲気でも過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表で食べる量を把握している。食事量が少ない方は高カロリーゼリーやジュースを提供している。また本人の好む物で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる毎食後、自分で歯磨きを行ってもらっている。難しい利用者には職員が一部介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートで一人一人の排泄パターンを把握している。利用者がトイレに行きたい時や時間等をみてトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄したい気持ちを大事にしている。一人ひとりの排泄状態を把握しトイレでの排泄を心掛けている。オムツで入所してきた方でも紙パンツや尿パットに移行したり排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したりヨーグルト、芋、牛乳等を摂ってもらっている。便がでない時は腹部マッサージや下剤の使用、看護師による摘便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については本人に尋ねるようにしている。入浴を嫌がられた場合は、本人の希望を聞き、日を改めて入浴をしてもらうようにしている。	週2～3回の入浴日を決めてはいるが必要時はいつでも入浴できる体制を整えている。状態によっては清拭や洗髪のみ行ったり、無理をせず利用者の気持ちに沿った入浴支援が行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向にある方は日中声かけしたり運動等で体を動かしたりして夜間良眠できるよう支援している。また温度調整や布団の枚数を調節し、心地よく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で使用している薬については、薬のリストを作成しており、薬の効果や副作用について把握している。職員が服薬介助や服用する時にこぼさないよう見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり新聞を折ったり等出来る事は日課として行ってもらっている。また好きな飲み物やおかしを個別に提供し楽しみになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風船バレー大会や敬老会等の行事には参加している。希望があれば外出できるよう支援に努めているが、日常的な外出支援はあまりできていない。	天気が良い日は近隣の散歩やドライブに行くよう心掛けている。地域の行事には積極的に参加している。1対1で通院したり買い物したり機会がある。季節の花見は定期的に行われ季節感を味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方がいれば本人に所持してもらっている。また手元に置いておくのが不安な方や管理が難しい方は預からせていただき、本人、家族の希望に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。また頼まれた場合は職員が代わりに連絡をとったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間としてはスペースが十分ではないが、食堂の奥に畳があり、くつろげるようになっている。また食堂から中庭を眺めることができ、四季を感じるができる。	窓が広く自然な光が取りこまれている。加湿器、空気清浄機が設置され、温度や湿度も気を配っている。同じ空間で職員も一緒に洗濯物をたたんだり、干したり家庭的な雰囲気がありゆっくりと過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間等、利用者同士が自由に使って思い思い過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し、本人が使いなれた物や思い出の物があつたら持ってきてもらい、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	部屋の空調も職員が調整し心地よい環境を作っている。なじみの物や家具が置かれており自由に持ち込みができる。家族や事業者で撮った写真も掲示され和やかな部屋づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下に手すりを設置して安全に又自立に向けた支援ができるようにしている。		